

# 火と氷の国・アイスランド

＜伊 達 正 和<sup>1)</sup>＞

北大西洋にある島国アイスランドは、中央海嶺のホットスポット上に位置するため、火山活動が盛んである。現地の観光ガイドが「地質天国」と表現した通り、断層や溶岩原、間欠泉や氷河など、様々な地球の活動を見ることができる。



第1図 アイスランド島の地図。図中の番号は、各写真の撮影地を表す。首都レイキャビク (Reykjavik) は、左下の■印。なお2010年3月に、★印にある氷河エイヤフィヤトラヨークトル (Eyjafjallajökull) で、2世紀ぶりに火山が噴火した。



写真1 シングヴェトリル (Þingvellir) 国立公園は、北米プレートとユーラシアプレートの境目にあり、大地に幾筋ものギャオ (Gjá) と呼ばれる裂け目が走る。この公園は世界初の民主議会が開催された場所でもあり、ユネスコの世界文化遺産に登録されている。



写真2 溶岩の間から湧き出す「溶岩の滝」フラウンフォッサル (Hraunfossar) は、幅900m以上にも及ぶ。



写真3 幅70m、落差30m以上もある壮大な「黄金の滝」グドルフォス (Gullfoss)。



写真4 アイスランドは地表の1割が氷河に覆われている。写真は「長い氷河」ラングヨークトル (Langjökull) の先端部分。



写真5 デイルダルトングクヴェル (Deildartunguhver) の湧出量は、毎秒180リットルで欧州最大級である。



写真6 ネシャヴェトリル (Nesjavellir) 地熱発電所では地熱発電を行うと共に、温水を市街地に供給している。国内の電力のうち2割が地熱、残り8割が水力によって得られている。



写真7 レイキャピクを見下ろす丘にあるペルトラン (Perlan)、郊外の地熱発電所からの温水をタンクに貯めて、市内の各家庭に送っている。「真珠」を意味する複合施設には、博物館などもある。



写真8 英語で間欠泉を意味する“geyser”の元となったゲイシール (Geysir) 間欠泉は、20世紀以降活動が弱まり、現在の噴出は1日に2～3回程度である。



写真9 ゲイシール間欠泉の近くには、熱水の噴出口が連なっている。



写真10 ゲイシール間欠泉に代わって、現在活発に活動しているのが、ストロックル (Strokkur) 間欠泉である。数分おきに20m以上の高さまで熱水を噴き上げる。



写真11 噴出直後のストロックル間欠泉は、水が引いて一時的に水位が下がる。